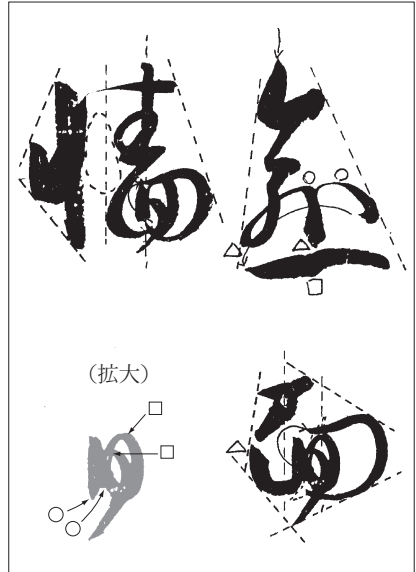


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭

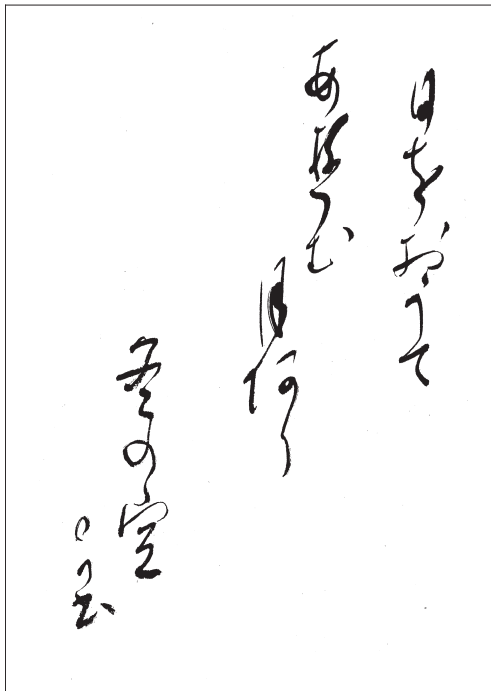


愈面牆  
愈(孰ぞ) 面に面するに愈らんや

- 1、字句 愈面牆
- 2、形式 半紙タテ使用。右に「愈面」、左に「牆」と臨書し、「牆」の下余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 書譜には右旋回の筆使いが実に多い。楷書や行書では横画から縦画に移る画であったり、単なる横画であるものが、草書では速写と省略化により右旋回の文字となる。この右旋回は筆の弾力を使って行なわれる。筆を押した後筆を引き上げ、引き上げた後押す。この繰り返し草書の基本用筆であり、特に書譜では多いのです。今回の課題の「面牆」に顕著に見られます。曲線が多くなると、よく言えば穏やかに感じられるが、穏やかな中に厳しさが感じられるようにしなければなりません。
- 4、各字のポイント  
 愈 真上から入筆。△ニヶ所は筆の裏面を使い、○ニヶ所で表面に返し、↓は意連綿。末筆は鋒先で入筆し、□まで押してゆき筆を引き上げる。  
 面 第一、二画目が左に寄り、「面」の中の部分は、一、二画目より少し右に寄せ、末筆を長くしている為文字に動きが感じられる。△で筆を強く突き↓は意連綿。右に大きく旋回し○で裏面□で表面に。  
 牆 偏は力強く連筆し、旁は軽いタッチで。「面」は一画目を除けば「面」と同じ動き。

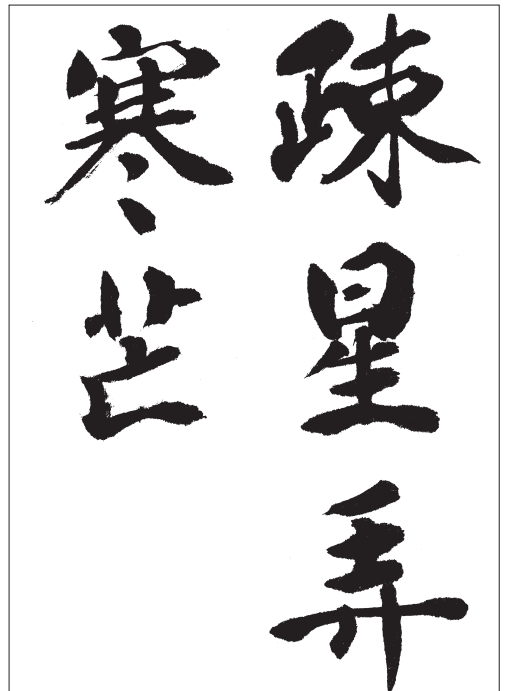
半紙課題(予告)

(十二月二十二日締切)



平岡華雪先生書

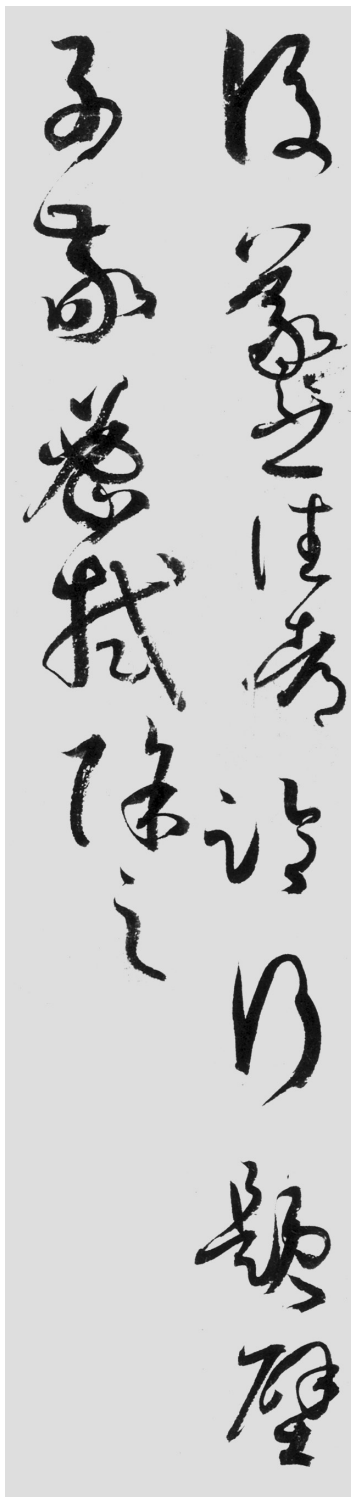
日を追うて歩む月あり冬の空(たかし)



平岡華雪先生書

疎星(ぼろ)寒(さむ)を弄(ろう)す(蘇軾)

訳：芒は光、まばらな星影が寒く空にまたたいている。



後義之往都。臨行題壁。子敬密拭除之。

後に義之都に往く。行くに臨みて壁に題す。子敬密かに之を拭除し、

その後、王羲之は都に行くことになり、出発に際して壁に字を書いた。

王献之はこっそりと字を拭い消して字を書き換え、

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

## 一字書（十一月二十二日締切）

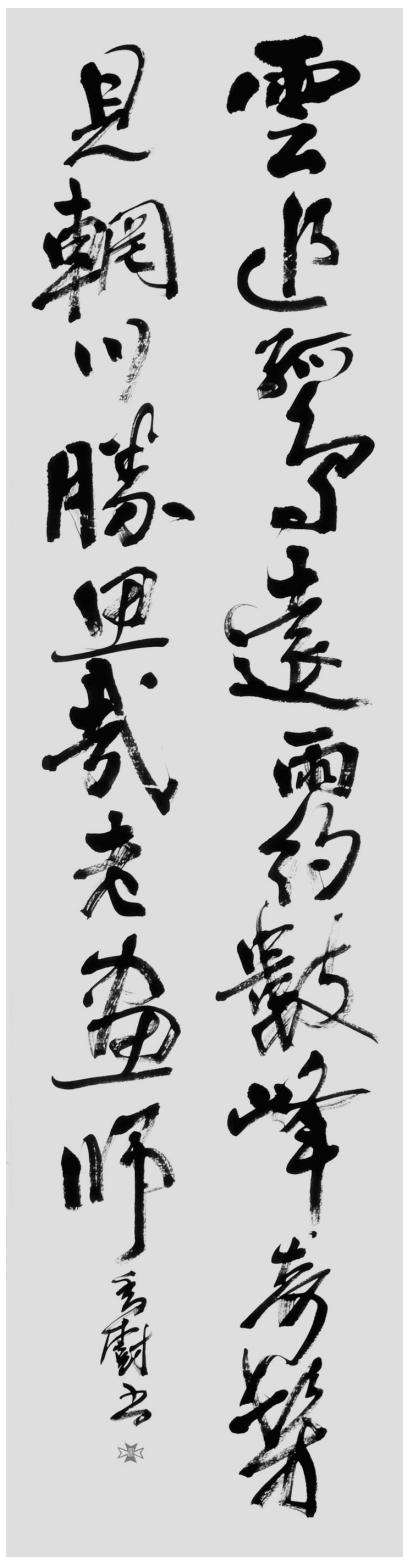
課題

# 遠

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

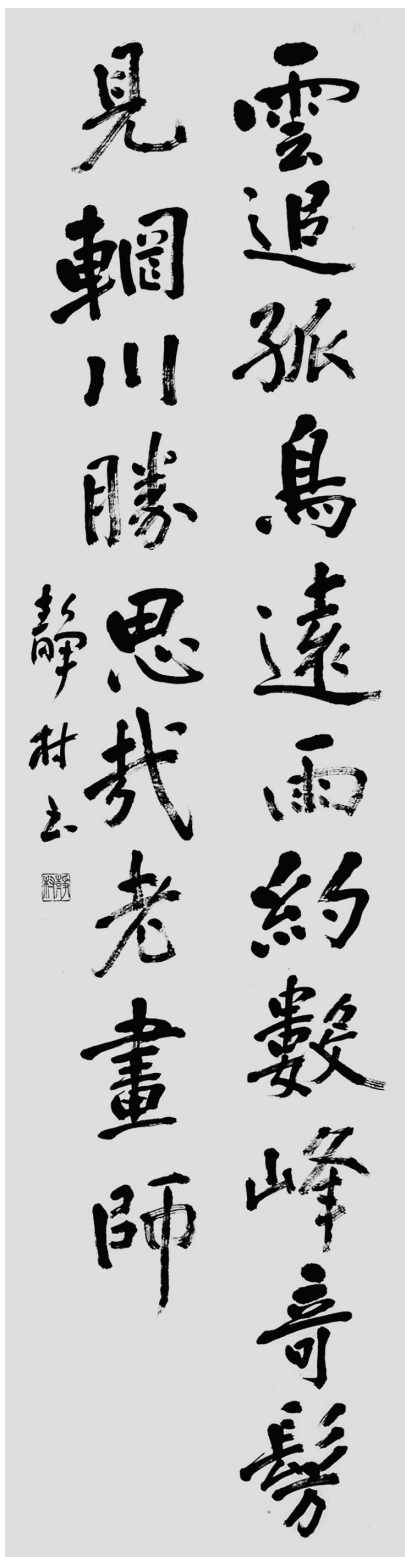
A  
高橋香樹会長書

雲追孤鳥遠 雨約數峯奇 髣見輞川勝 思哉老畫師 (土屋竹雨)  
雲は孤鳥を追って遠く、雨は数峰を約して奇なり。髣として見る輞川の勝、思う哉老画師。



B  
鈴木静村先生書

二十字の課題は、大小を上手く折り交ぜながら構成しなければなりません。その選択は仲々難しいものです。と同時にこの流れも重要な要素となります。墨継ぎは「峰」と「勝」です。



五絶20文字の楷書。兼毫四号(筆の選定は自由)墨継ぎは三字一筆(字詰め墨継ぎも決められたものなし、あくまで作例)。一方、楷書ながら潤滑を導入、骨法を基調に幾分細かな表出、しかし、実際には太めに肉付けしてほしい。追 一画目省略も多い。孤 旁の異体、よく使う。輞 〃〃

訳：眼前の雲は東に帰る鳥を追うごとく遠く、時に来る雨の中にくっつかの峰々の色が素晴らしい。全くここにいると、景勝の輞川にいるような錯覚をおこし、心ゆくまで画を書いた王右丞が偲ばれる。

この形多い。哉 この形ではタスキが多い。画 下部の書き方は多い。上から貫く書き方。師 一画目を省いた。

予告 (十二月二十二日締切)

萬壑風聲草木寒 (黄庚)

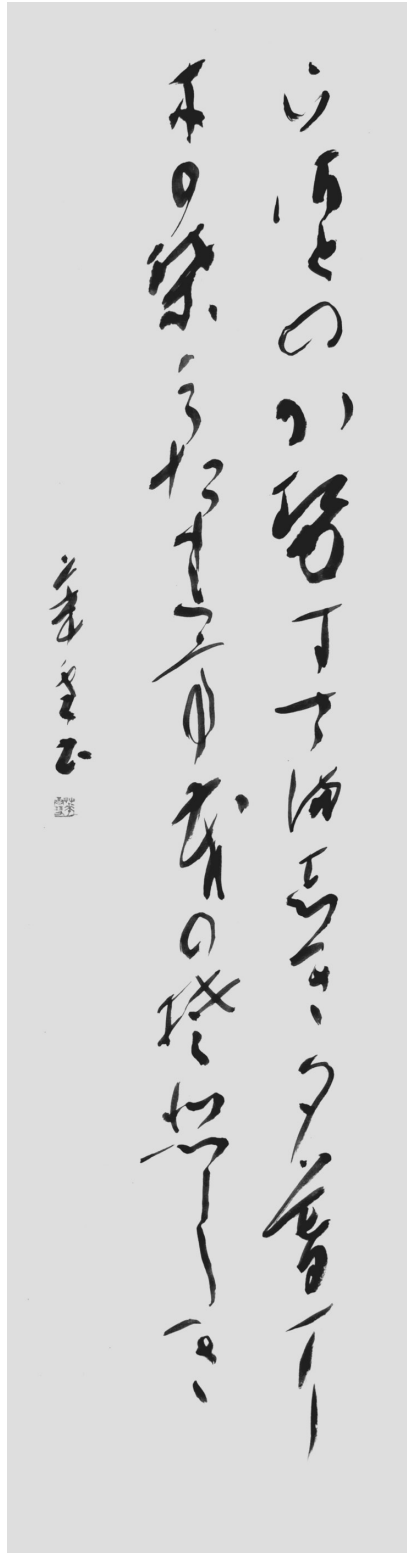
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

山里の風すさまじき夕暮に木の葉乱れてものぞ悲しき  
山佐とのか勢すき満志き夕暮耳木の葉三た連亭茂の楚悲しき

藤原秀能



B

福田玉翔先生書

山里のか勢すき満し支夕久れ二木能葉三堂連てももの楚悲しき

新古今和歌集

後鳥羽院の下命による勅

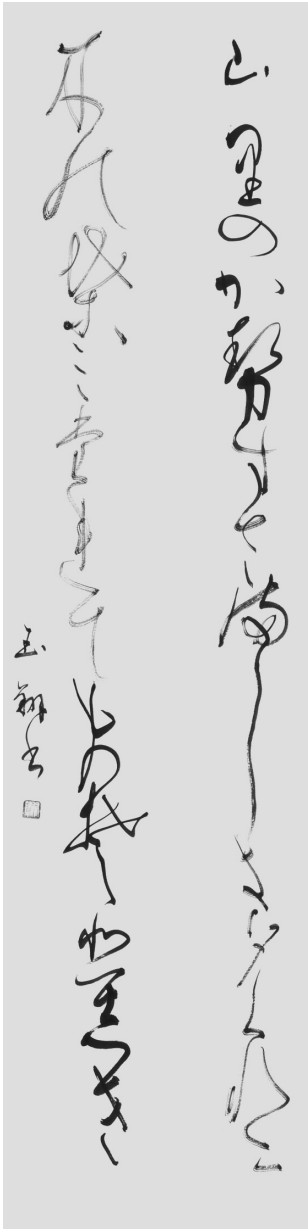
撰第八集。

藤原秀能(ひでよし)

後鳥羽院の北面の武士、

歌才を認められ和歌所寄

人の一人となる。



学び方

漢字は「山」「里」「夕」「木」「葉」「悲」の六文字を使用しました。一般的には、二〜三字程度ですが、堅くならないようなら漢字を増やして文字数を減らすことも効果的です。墨継ぎは、二行目の中間より少し下で一回が標準的です。基本的には墨継ぎしたら文字は小さ目に、渴筆になったら文字は大きめに華やかにまとめます。具体的には、二行目冒頭の「山里」で墨をつけ小ぶりに書出し、そのまま二行目の中間より下の位置まで一気に書きま

す。その中で「し」の使い方は作品の印象を変化させる重要な要素になります。今回は、一行目に長めの「し」を使ってみました。最終部分の「悲しき」は「志」を使って変化させました。変体仮名を工夫して独自の作品を創作してみてください。

予告 (十二月二十二日締切)

秋晴れのひかりとなりて楽しくも実りに入らむ栗も胡桃も (斎藤茂吉)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

田中胡秋先生書

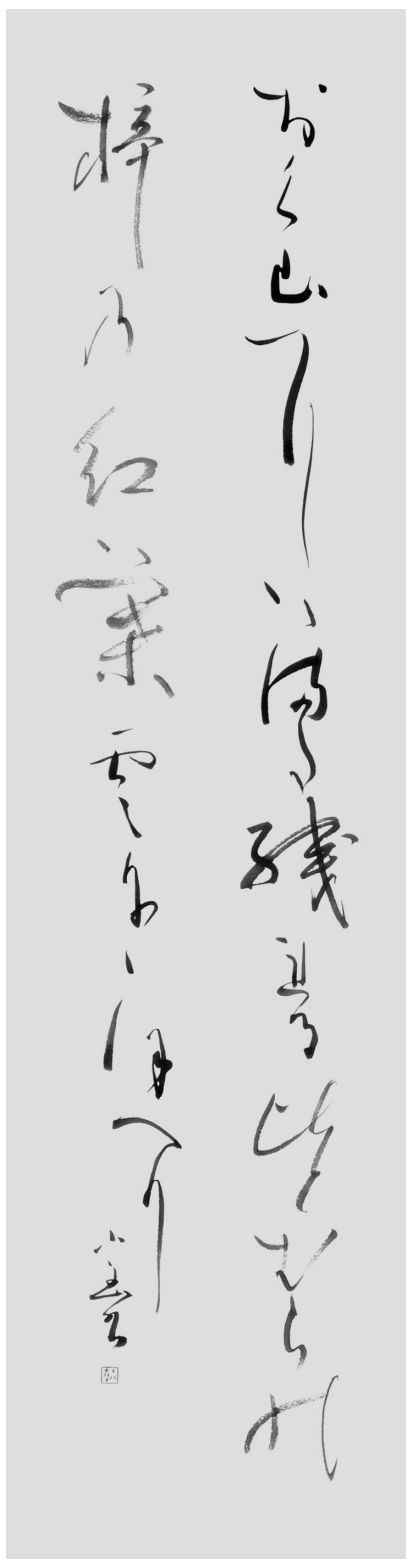
樂靜多高致（徐艷）  
静を樂み高致多し。



訳：幽静を楽しむことを修養すれば高尚なる趣味を得る。

高山小玉先生書

おく山に未だ残れる一むらの梓の紅葉雲に匂へり（伊藤左千夫）  
お久山耳に満多残連る比とむら能梓乃紅葉雲尔、保へり

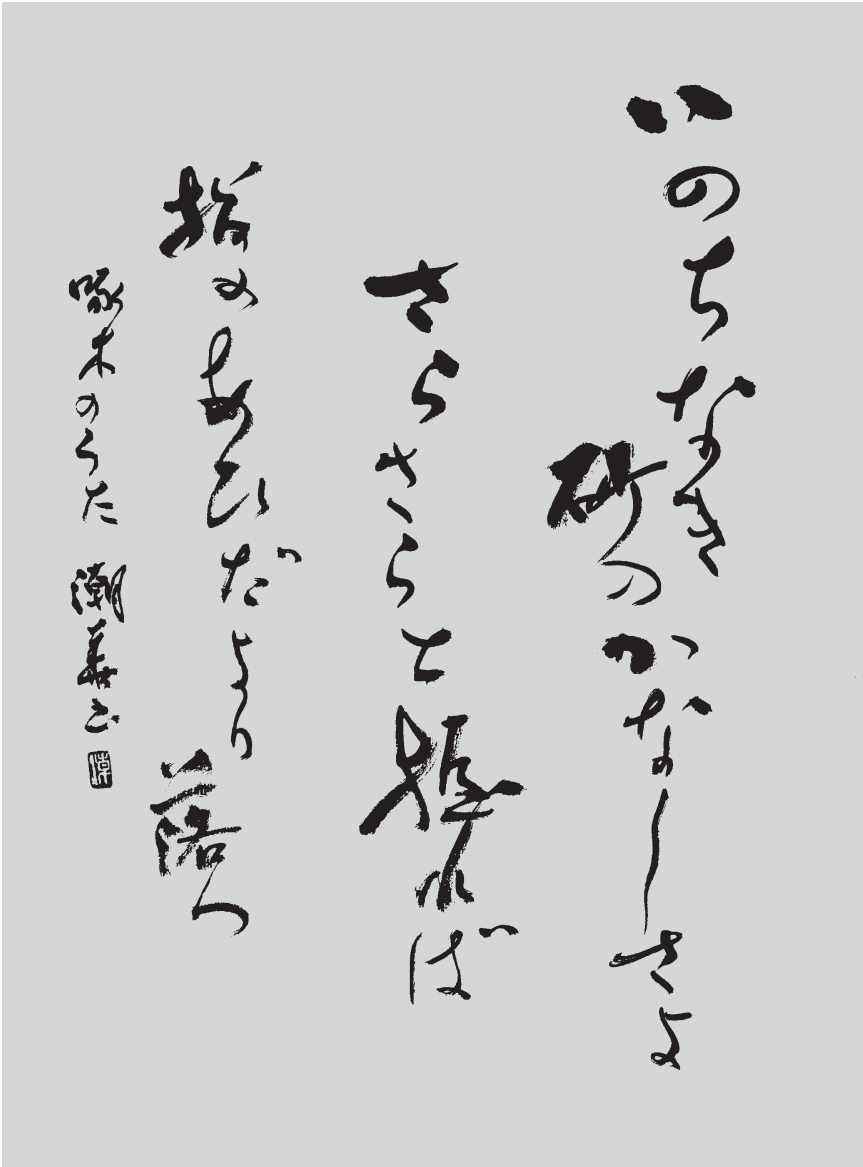


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

水貝潮華先生書

いのちなき砂のかなしきよ  
さらさらと握れば指のあひだより落つ  
石川啄木

皆さんよくご存知な歌ですね。書き初めは自然に入り、真中の行で山場を作り、最後の行では静かに収めることを頭に入れ、口遊みながら、今まで勉強してきた漢字・かなの基本的な筆づかいを基にして、気楽に書いてみましょう。



石川啄木 (一八八六～一九一三)  
岩手県浪速村で代用教員生活の後、北海道に渡り、地方新聞記者となる。作家を自覚して東京に出るが、窮乏生活のうちに結核で死亡。歌集に『一握の砂』『悲しき玩具』がある。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

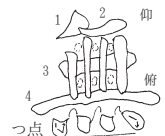
平岡華雪先生書

海月澄みて影なし。(臨濟録)

訳：海上の明月澄んで清きごとく、心中一点の妄念のないこと。



〈かすれ、にじみ〉  
 かすれ、にじみを嫌う人がありますが、心配いりません。あって自然です。もちろん過ぎてはいけません。適度のかすれ、にじみは線の妙味でなんともしえないものです。

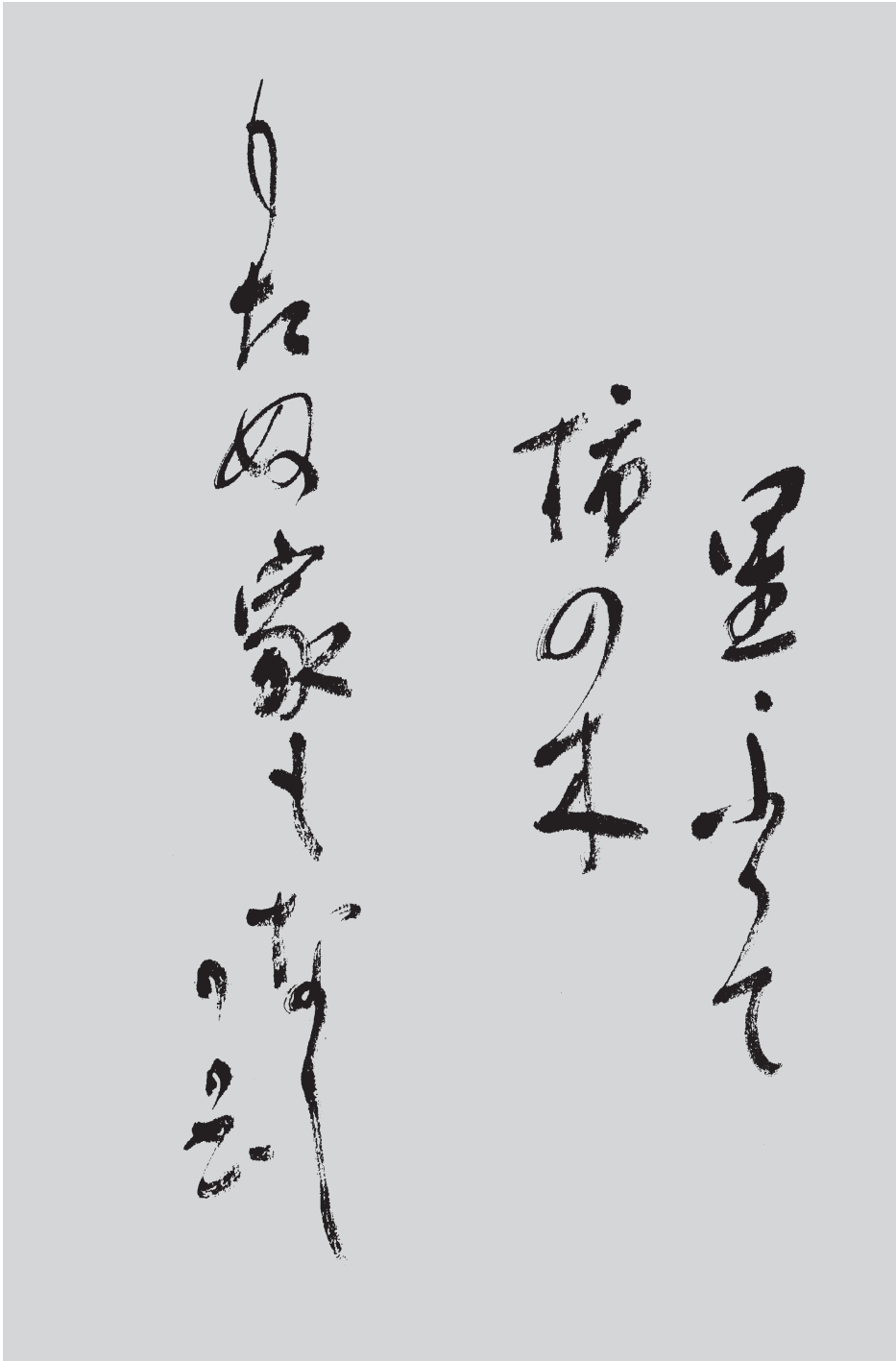


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

里ふりて柿の木もため家もなし(芭蕉)  
里ふりて柿の木もため家もなし



「漢字かな交じり書」として…  
変体かなの使用はなく、漢字四文字も行書体。連綿は三字連綿が一ヶ所、他に二字連綿が二ヶ所。特になは漢字の筆意に近い表現。繊細な筆意の「もため」以外のかなは素朴な線で現代的表出といえる。下五末の「し」、筆端の淡い筆圧が快い。むずかしい用筆だが。

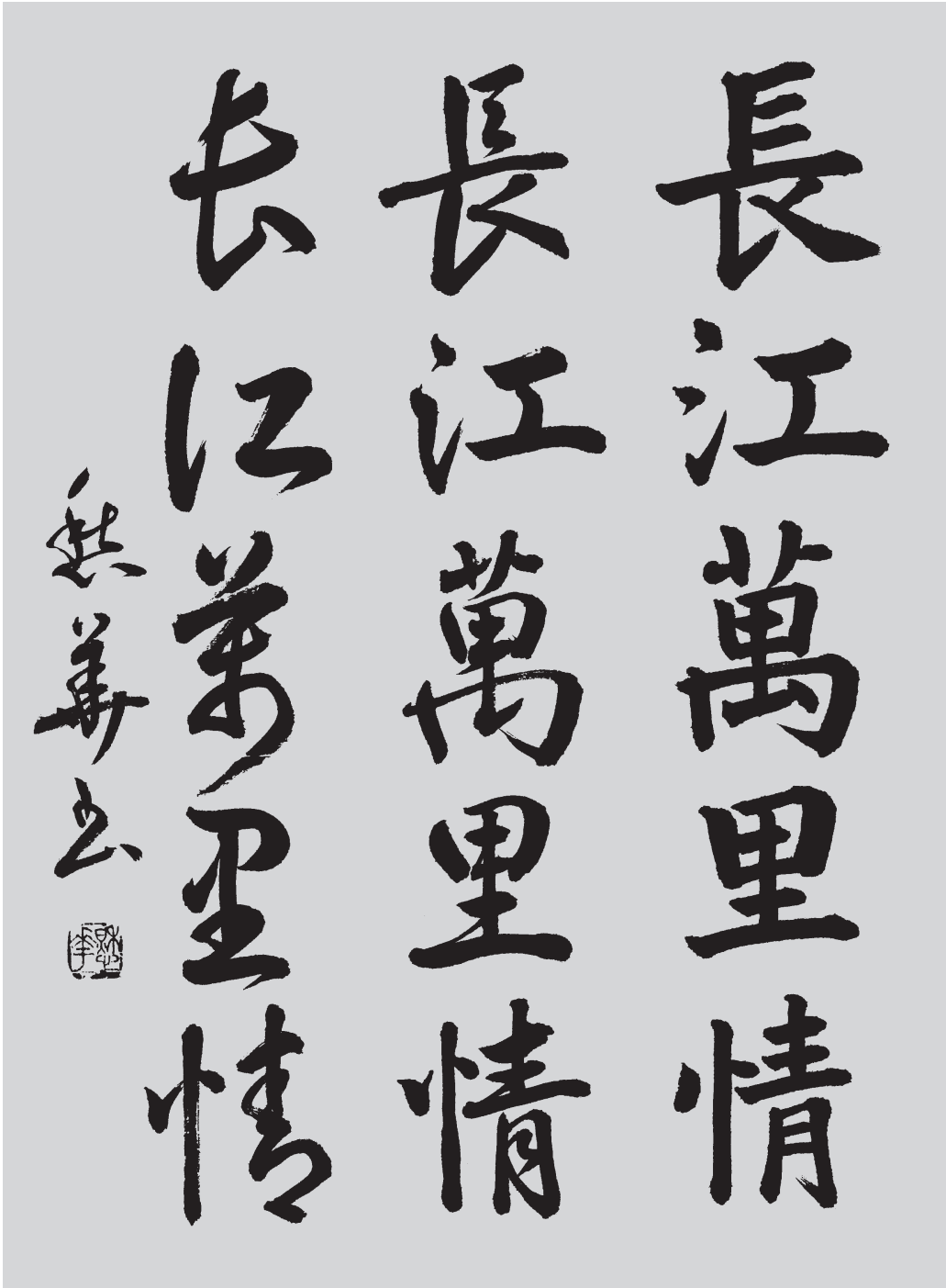
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



石田愁華先生書

長江萬里情  
ちやうこうばんりじやう  
長江萬里の情



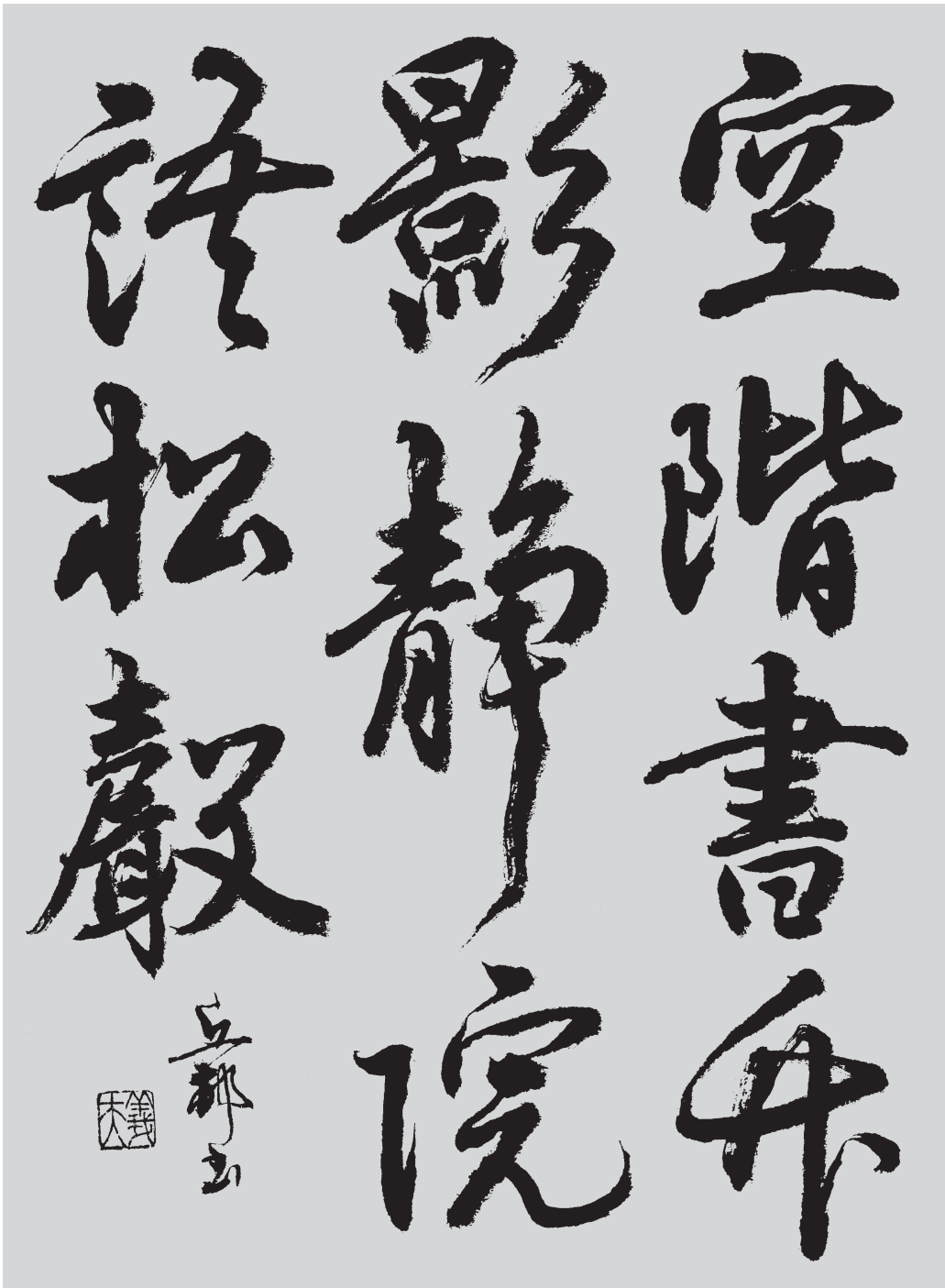
訳：長江の万里の流れにも似たわが思い。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

戸張丘邨先生書

空階書竹影 靜院語松聲（胡欽華）  
空階竹影書し、靜院松声語る。



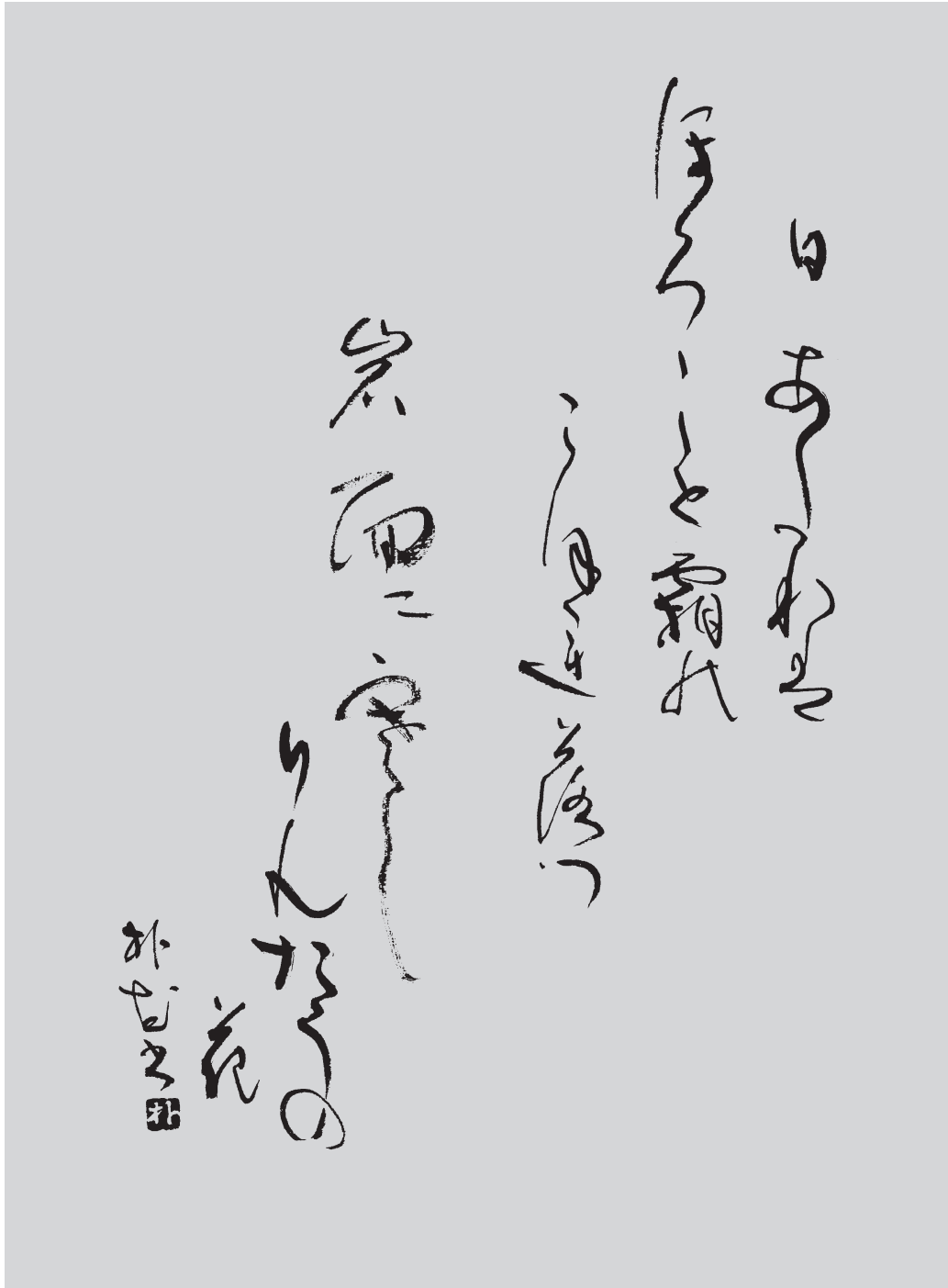
訳：物もなきぎざはしには竹の影が映っている。閑静な書齋には松風が音ずれるのである。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

向山朴花先生書

日あたればほろほろと霜のこぼれ落つ岩面に寒し龍膽の花（土田耕平）  
日あ多れ盤ほろ、と霜能こ保連落つ岩面二寒しり无たうの花



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一、〇〇〇円

秋空が晴れ過ぎたためか、日に近い  
海は春のように霞んでいた。ここから  
下田まで五里歩くのだった。

多摩川の土堤に立れば、対岸の所  
の上には多摩の横山が見え、晴れた日  
には、黒々とした丹沢山塊の上に、  
三段構えで富士が姿を現わす。  
「秩父愁色」 島田利正

課題1 (初段階以上)

多摩川の土堤に立れば、対岸の町の上には多摩の横山が見え、晴れた日には、黒々とした丹沢山塊の上に、三段構えで富士が姿を現わす。

「秩父愁色」 島田利正

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

秋空が晴れ過ぎたためか、日に近い海は春のように霞んでいた。ここから下田まで五里歩くのだった。

「伊豆の踊子」 川端康成